

## 鉄道乗車人員と観光客入込客数、人口との相関関係資料

### ① 鉄道利用者数

小樽市は人口の減少が続く中、JR 小樽駅の鉄道乗車人員、観光入込客数は増加傾向にあります。よって、鉄道乗車人員は観光客の増加が加味されている <sup>(※)</sup> ものとして今後も観光客の増加が続くものと考え、回帰分析を行った上で鉄道乗車人員の増加率を算出(図 6-3 参照)し、現況(平成 30 年(2018 年)時点)におけるピーク時の鉄道利用者数に乗じてピーク時将来鉄道利用者数を推計します。さらに、推計したピーク時将来鉄道利用者数から駅端末分担率(「駅前広場計画指針」より)を用いてバスやタクシー等の施設別のピーク時将来鉄道利用者数を推計します。

なお、前述のとおり、並行在来線の影響についても考慮することから、「在来線廃止あり」のケースでは、並行在来線の鉄道利用者数を減じた推計をするとともに、「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画(平成 29 年(2017 年)3 月 小樽市)」の検討条件と整合を図ります。

#### 【将来鉄道利用者数の増加率】

2030 年： $4,035 \div 3,453 = 116.9\%$

2040 年： $4,259 \div 3,453 = 131.2\%$



図 6-3 JR 小樽駅における乗車人員数

#### ※鉄道乗車人員と観光客について

2010 年度～2018 年度における小樽市の人口と観光入込客数、小樽駅乗車人員から、重回帰分析により小樽駅乗車人員を算出した結果(図 6-4 棒グラフ参照)、実数(図 6-4 赤字参照)とほぼ一致することから、鉄道乗車人員は観光客の増加が加味されていると考えられる。



図 6-4 重回帰分析による JR 小樽駅乗車人員数